

冠婚葬祭の合理化めざして（視察報告）

～～～ 秋田県新生活協議会の実践をみる ～～～

三月十一日、かねてよりこの面で実績をあげている。秋田県新生活協議会の事務所を訪ねた。秋田市にある県庁の別館、総合庁舎の六階である。会長は元、秋田県知事の小畑勇二郎氏（七十四才）知事退任後、自ら陣頭にたつて、この仕事に情熱を傾けている。この日は、あいにく出張で会えなかったが、事務局長にいろいろ仕事の内容を伺ってみた。会長の外、広い事務所があり、常勤の職員は十名おり、県の社教課より課長クラス一名常勤、職員の人件費等は政府（総理府）と県と少額だが会の会費でまかなっている由。

できるものから重点的に実践する建前から、現在は、「冠婚」を主にしている。県内全般にわたる運動でスケールも大きい。事業内容の一端を紹介してみよう。

結婚を祝う運動のねらい

結婚披露宴は次第に派手になり、本人や両家そして参加者にも大変な負担になっているので、ここでムダ、ムダ、ミエを省き、温かく親しみやすい思い出のこる結婚式をすすめることをねらいとする。それにはまず

○(1) イメージを変えよう。

「○○君、○○さん結婚祝賀会。」などの名稱にし、親、当人、友人たちで作る世話人会や実行委員会主催し、心温まる運動をしよう。

○(2) 過剰な支出をおさえよう。

・ムリ、ムダ、ミエをすてて会費で心をつなぎあおう。

・引出物を出さないが、軽い「おみやげ」を考えよう。

○(3) お料理は会場でいただくものに限りましょう。

・結婚披露と祝賀の本来の意味を生かさそう。
 ・なごやかな司会で二時間ぐらいにおさめよう。

○(4) 平服で気軽に参加しよう。

・共通の祝章（造花リボンなど）をつけて入場しよう。

○(5) 招待のめあてをはっきりしていこう。

・平服で気がねなく参加しよう。
 ・招待される方の立場を考えお招きしよう。
 ・当人、実行委員、両親の心のもった案内状をくふうしよう。

○(6) 会場施設えらびは主催側の話し合いできめよう。

・施設まかせの相談はやめて、主体的にきめていこう。
 ・運営すべては主催側ですすめ、めいわくかけず、きれいに終ろう。

○(7) 楽しくなごやかな座席づくりをしよう。

・両親、当人、媒婦人をメインテーブルに位置づけよう。
 ・会場全体の空気を楽しくゆたかにしよう。
 ・和式、様式いろいろくふうしよう。

○(8) 運動ひろばにみんなの力を出しあおう。

・指導者、リーダーの率先垂範で、合理化の輪を広げよう。
 ・行政機関、施設、職場、団体等の分担と協力で運動を広げよう。
 ・テレビ、ラジオ、新聞、広報機関紙を広くいかして世論をたかめよう。
 ・更に具体化のために、県内各地に次のような施設を設けている。

ウエディングヘルパー

会費制結婚祝賀会の拡大推進をはかるため、要請者の必要により指導、助言、直接援助の活動をしている。経費はボランティア精神を基調にしながらも、実費は要請者の負担とする。

協力店の設定

ホテル、会館、レストラン、プラザ、温泉等会場となるような店へは（秋田県新生活協議会協力店）の標示板を渡している。

会費制による結婚の仲人をひきうける会の設立

会費制でなければ仲人をひきうけない運動の推進として左のような会をつくり、各地のトップクラスのおえら方が多数協力者となっている。

その他

▲楽しい結婚披露宴をすすめる研究会

▲ヘルパーの実践発表及び検討会

▲シンポジウム

会費制結婚披露宴の具体的推進方策を探る

パネラ 五名

▲すすめよう結婚を祝う運動（資料パンフレット）の発行
 次ぎに七千円会費制披露宴収支決算書（56・5於青少年の家）の例をみる。

(収入)	円	名	円
会費	7,000 × 110		770,000
(支出)	円	ヶ	円
折り箱	2,500 × 120		300,000
酒・ジュース	1,000 × 110	人	110,000
盛り皿	2,000 × 40	皿	80,000
記念品	1,400 × 110	ヶ	154,000
パンケーキ	500 × 110	人	55,000
会場費	150 × 150	人	22,500
印刷費			20,000
会場設置費(クス玉、花束等)			23,500
事務費、その他			5,000
計			770,000

なお、会費制の例として、五千円、八千円、一万円等がある。

右の外、両家、新郎、新婦で負担するもの

貸衣裳代、寿写真代、挙式費用、他となっている。

（視察者、福祉部能登六男、事務局佐藤勝男）

● 会費制結婚披露宴をすすめよう。